

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本



市制施行50周年を記念して「みらい懇談会提言書～夢と希望に満ちたこれからの守山」の一つに「読書日本一のまちづくり」が掲げられました。
 図社会教育・文化振興課 ☎・☎(582)1142 ☎(581)2733
 市立図書館 ☎・☎(583)1639 ☎(583)6949

質問 小さい時の「本が好き」は、大きくなるまでずっと続くのかな？

答 「好き」が続くよう中高生の読書イベントを行っています



守山北高校の朝読書の様子

小さい時の本との出会いで「本が好き」になったら、それが続くように、中高生を対象とした読書イベントが行われています。具体的な取り組みの例を紹介します。

ビブリオトーク 発表者が1冊の本を3分間で観客に紹介するイベントです。8月に図書館で行われた「ビブリオトーク」では11人の発表者が、恋や学校のこと、謎解き、平和について考えられる本などを熱く紹介してくれました。

読み聞かせ 守山北高校の朝読書の時間に、市立図書館司書が絵本の読み聞かせを行っています。これは10年以上も続く取り組みです。生徒は「今と昔では感じ方が違ってよかった」などと感想を話してくれました。

佐川美術館
アートコラム⑩

デリケートな美術館の主役

主任学芸員：馬場まどか
佐川美術館



日当たりの良い暖かい部屋にジャガイモを置いていたら、あつという間に芽が出てしまったことがあります。そのときは、涼しい部屋に新聞紙で包み保存しておけば…と後悔したものです。ジャガイモに限らず野菜はとてもデリケートですよ。それぞれの野菜の保存方法を調べ、一日でも長く日持ちするように心掛けています。

なぜそのような話をしたかというところ、美術品にも同様のことが言えるからです。

美術館の中で主役と言えば、それは間違いなく美術品。美術品といってもさまざまなカテゴリーがあります。絵画、彫刻、陶芸、デジタルアートなど。美術品における定義の解釈が昨今大きく広がったことで、あらゆるジャンルの作品が美術品として扱われるようになりました。

ジャンルが増えるということは、それだけ保存方法もいろいろあるということです。例えば、絵画でも水彩なのか油彩なのか、基底材(描かれているベースの素材のこと)が何なのかによっても全く保存方法が異なります。もっと詳しく言うと光や温度、湿度の影響を受ける度合いが、作品ごとに違うということです。

作品を後世まで長く守っていくために、美術館は「保存」する使命を背負っています。展示室が寒いという意見を聞くこともありますがそれは美術館の主役を守るため、わざとそのような環境が整えられているというわけです。鑑賞の際は、カーディガンやストールなど脱ぎ着できるものを一枚お持ちいただくと、美術館の主役たちも快適にお客さまに見てもらいやすくなります。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800でお問い合わせください。